

復刊

いざみ



所沢図書館だより
復刊13号(通巻91号)
題字 高橋 玄洋 氏

目 次	
P.1-3	講座報告
P.4	子どもの読書活動 推進事業
P.5	ごぞんじですか？ 文化財保護強調週間
P.6	新館長あいさつ

はじめに

私は、埼玉県のさいたま市に住んでいます。生まれは熊本市の熊本市です。1歳になる前に東京に移り住んだため、本のプロフィールには熊本生まれ東京育ちと書いています。家は貧乏で本はあまり買ってもらえませんでした。が、「小学〇年生」(當時は六年生までであった)という学習雑誌を、親戚の人が毎月送ってくれました。中には物語やマンガなども載っていて、そのような雑誌を読みながら知識を得て育ちました。2006年に作家デビューをしました。一冊本が出て、デビュー後5年ほどは会社員をしながら書いていました。現在は会社を辞め、専業の児童文学作家になりました。

平成27年度子ども読書活動推進事業

児童文学作家・濱野京子氏講演会

「物語と出会う」読むことと書くこと

講師 濱野 京子氏(児童文学作家)
平成28年3月6日(日) 会場 所沢図書館本館

児童文学とは

子どもの本を書いている、と言うと、絵本と思われる方が多いのですが、私は絵本作家ではありません。もちろん絵本はともて大事なもので、絵本が好きなのは多くいますし、絵本が育ててくれることはたくさんあると思います。

さて、児童文学はどのようなものかという点、定義・考え方は人によって違い、いろいろな考え方があると思います。シンプルに言うなら、子どもの読める文学作品、だと思っています。子どもが読める、とはどういうことでしょうか。「大人も読める、大人が読んでもよい」、これが大前提ではないでしょうか。「児童」という言葉は教育の中では小学生を指します。そのため、児童文学は小学生のためのもの

と思われがちですが、実際には「ヤングアダルト」という言葉があるように、もう少し上の世代が読むものも児童文学に含まれます。

それでは、児童文学は一般の文学作品とどう違うのでしょうか。児童文学が一般と異なるのは、しばしば年齢によって区分されている点です。背表紙に低学年向きとか中級以上、高学年以上と書いてあることがあります。一般の文芸作品に、中年向けとか高齢者向けとかないですね。それからごく児童文学らしい特徴は、児童文学は挿絵が多いことです。一般書でも挿絵がある本もありますが、児童書の場合は挿絵が普通に描かれていて、表紙にも画家の名前が出ています。挿絵は児童文学と密接に繋がっているのです。また、私たち書き手にとって



は、児童文学は希望を語るものだと思います。これはハッピーエンドにするという意味ではありません。物語の中で苦しいことや悲しいこと、つらいことを書いてもよく、めでたしめでたしで終わらなくてもよいのです。ただ、絶対的な絶望、救いがない話は、児童文学には相応しくないと考え方はたくさんいます。数年前に亡くなった、「1ねん1くみ」シリーズなどで有名な後藤竜二さんは、児童文学は子どもたちの応援歌だと仰っていました。それから『バッテリー』の著者、あさのあつこさんは、どんなに厳しい話でも一筋の希望がある、ということを抑っていたと記憶しています。

私は最初から児童文学作家を目指していたわけではありません。たまたま思いつき、書いたものが児童文学に含まれる作品であったことがきっかけで、児童文学と関わるようになりました。ただ、書くようになって、児童文学と自分は相性がよいと思うようになりました。やはりそれは、希望が書ける文学だったからなのです。

読むことの大切さ

子どもが本を読まないという話はよく聞きますよね。ご飯は食べないと生きていけないけど、本は読まなくても生きていけます。だから読まなくてはいけない、ということはない。それでも私は本を読んだ方がよいと思います。現実的に役立ちますよね。私も本を読むことで言葉を覚えたり、漢字を覚えたりしてきました。そして本を読むことで、興味の幅が広がり、違った価値観を獲得できるのです。それは、どういふことかというところ、今まで自分の視界に入らなかったものが目に付くようになることです。物語に関係のないことでも、本に書かれている事柄に興味を持つこともあります。人の体験には限りがあるので、物語の世界で間接的な体験を広げていくことができるのです。そしてもう一つ、本を読んでいるときや物語に没頭しているとき、自分で物語を書いているときも同じなのですが、心が解放された気持ちになります。こういうことは、文学作品の役割ではな

いかと感じています。色々理由付けをしました。なぜ本を読むのかというと、読むことが楽しいからだと思えます。だから本を読まなくても人は生きていけます。でも本を読まないのはもったいない、本を読むことの楽しさを知らないまま大人になるのも、もったいないことだと考えます。

物語と出会う

物語と出会う、と言うと、読書のことを思われるかもしれませんが、でも私は書くことで、作者も物語と出会っていると思います。自分で書いていて、この人物たちはこれからどうなるのかな、と考えることがあります。自分で話を決めていのに、おかしいなことです。でも、どうするかを考えるより、どうするかを考える方がしっくりきます。あらかじめストーリーを決めて書いているのに、なぜかそこから外れて意外な展開になったり、最初は考えていなかった人物がひょこっと出てきたりします。これが物語と出会うことだと思えます。

物語を書く

私がこれまで書いてきた作品で登場する主人公の年齢は、小学校4年生から高校3年生までです。私にとって一番書きやすいのは、中学生や高校生を主人公にしたヤングアダルトと見なされる作品ですが、小学生が主人公の物語を書くことも面白いです。それはなぜかというと、書く上で様々な制約があるからです。難しい言葉は使えないこととがありますし、言葉遣いや内容的にも制約があります。このような、限られた条件の中で書いていくことにも面白さがあります。

そして、本を書く時には色々なことを調べなくてはなりませんが、本やインターネットだけでは分からないこともあります。本を調べることも取材と言いますが、私が初めて外に出かけていく取材をしたのは、『フュージョン』という作品を書くときでした。この作品はダブルダッチという2本の縄を使って跳ぶ大縄跳びを題材にしています。跳びながら色々動作をしたり、

手をついたり、回転したりして音楽に合わせて跳ぶのがフュージョンという競技です。この話を書こうと思った時に、私はある大学のサークルの方の話を聞きに行きました。そして実際に跳ばせてもらいました。やはり取材をしないと分からないことがあります。その時、既に少し原稿を書き進めていたのですが、縄跳びをやっている子が足に縄が引っかかって「痛いっ」と言うシーンを書いていました。ところが自分が跳んでみて、縄が引っかかって全然痛くありませんでした。「痛くないですね」と言ったら、「縄ですから」と言われて（笑）。

そして、地元の浦和の高校がモデルで、ボート部を題材にした『レガッタ！』では、高校の練習風景を見せてもらったり、話を聞いたりしました、埼玉県内のボート部がある高校の多くは戸田市にあるので、戸田のボート場で練習します。何度も訪れ、実際のレースも観戦しました。さらには新潟県で行われたインターハイにも足を運びました。やはり、これも実際に見

なければ分からないことがあります。初めて競技用のボートを見た時はなんて綺麗なのだろうと思いました。あと、ボート場は基本的に太陽を遮るものがないので、夏に行くとその暑さが、冬に行くとその寒さが分かります。実際に行ってみることは意義が大きいと思いました。

物語るとは

このように物語を書いているのですが、人はどうして物語を求めるのでしょうか。小説とか本だけでなく、マンガ、テレビドラマ、ゲーム、映画などでも物語性の強いものがあります。

また、世の中には物語が溢れています。昔からずっと伝えられてきた昔話や神話、民話など色々あります。おそらく、人には物語る欲求があつて、それは人間の本質に深く関わっているのではないかと考えています。そして人間は様々な出来事を物語に反映させてきました。例えば戦争や災害もそうだと思います。私は、高度成長期と一緒に成長したので、もちろん戦争などは知りません。関東で育った

ので、阪神や新潟の地震とか、何度も災害がありました。経験しませんでした。ただ、3・11の後はどう思いました。不幸にして人生が短かった場合はともかく、何十年か人が生きた場合、その人生の中で本当に厳しい時代を経験しないということ是不可能ではないかと。そして今までのような生活には戻れないのではないかと感じました。原発事故は全然解決されていませんし、被災地の復興もまだまだです。人間はつらいことばかり考えて生きるのは大変ですから、忘れることも必要だと思います。でも、時々振り返ったり、改めて考えてみたり、そんな機会を与えたいと上からの物言いかもしれないが、物語にはそのような役割もあるのではないかと思います。私は3・11の後、3回東北に行きました。3度目に行った岩手では、実際に被災し、ご家族を亡くされた方のおはなしを聞きました。話すことはすごく辛いことだと思います。でも、もしかしたら、被災した方にとって、話すことは辛いことだけではないの

かもしれないと感じました。やはり、家族のことを語りたいという想いもあったのではないかと思います。

私が心配していることは、こうして5年目の区切りを過ぎると、ますます語られなくなってしまうのではないかとことです。やはり、忘れてはいけないこともあるのです。現場を見るということは大切で、私たち書き手は、書いたものを発表する場を与えられています。だからこそ、その時々々の社会状況や現場のことを伝えることも、役割の一つであると感じています。

●濱野京子氏 プロフィール

熊本県生まれ、東京育ち。さいたま市在住。

『フュージョン』で第2回JBBY賞、『トーキョー・クロスロード』で第25回坪田譲治文学賞を受賞。

その他の作品に、『碧空の果てに』『くりいむパン』『石を抱くエイリアン』『アカシア書店営業中！』『ことづて屋』『レガッタ！』シリーズなど。

子どもの読書活動推進事業 ～本館の取組～

所沢図書館では、「第2次所沢市子どもの読書活動推進計画」に基づき、様々な取組をしています。これまで本館で実施してきた各種子ども向け行事や、他の機関と連携した取組が優れていると評価され、今年度、文部科学大臣より表彰されました。その取組の一部を紹介します。

所沢図書館本館が 文部科学大臣表彰を受けました！



《小・中学校との連携》

市内の小学校32校の3年生全クラスに司書が訪問し、図書館の利用案内とブックトーク（本の紹介）を行っています。



毎年夏には、お薦め本のリストを作成し、市内小中学校の全児童生徒に配布しています。

また、図書館見学、職場体験の受入れや、調べ物の資料、学級文庫等の学校団体貸出も行っています。



《病院との連携》

市内の小児科や産婦人科の待合室に、「図書館利用案内」乳幼児を持つ保護者の方へ」を設置しています。「親子おはなし会」のご案内と、赤ちゃん向け絵本の紹介などが載っていますので、ぜひご覧ください。

また、病院に入院している子どもたちのために、院内学級と協力して「出張おはなし会」を実施し、昔話の語りや絵本の読み聞かせをしています。

《その他の機関との連携》

保健センターのBCG接種会場でのわらべうたと絵本の読み

聞かせや、公民館の子育てサロンでの「おはなし会」などを開催しています。

また、航空記念公園事務所や生涯学習推進センターと連携して様々な催しを実施しています。

《大人への啓発事業》

読み聞かせボランティア等の育成、講座の実施、教員や学校司書の研修協力等、子どもを取り巻く大人に対して、子どもの読書推進に対する理解と関心を深める事業を実施しています。

本館の子ども向け行事

《おはなし会》

毎月第2・3・4・5土曜日。4歳からの小さい子向けと、小学生を対象にした大きい子向けを開催しています。昔話の語りや絵本の読み聞かせなどの楽しい会です。

《親子おはなし会》

毎月第3金曜日。0歳から3歳くらいまでの子どもとその保護者を対象に、絵本の読み聞かせやわらべうたであそびます。



市立保育園の保育士も参加していますので、終了後に育児相談ができます。

《かがくあそび》

毎月第1土曜日。小学生を対象に、実験や工作を行います。夏休みや春休みには、かがくあそびスペシャルや工作会も開催します。



《かみしばいの会》

毎月第1土曜日。4歳から。「所沢紙芝居の会」による紙芝居と手あそびの楽しい会です。

《おはなし会スペシャル》

季節に合わせた特別なおはなし会です。パネルシアターやクイズなども行います。



※行事の詳細は「今月の図書館」や、「ほんのりのトピア」などの広報紙をご覧ください。

分館の取組

所沢分館

毎月第4金曜日に乳幼児向けの親子おはなし会を行っています。終了後には、保育士や地域の方同士の交流の場となるよう、フリータイムも設けています。

椿峰分館

毎月行うおはなし会毎に通信を発行して、行った内容を紹介しています。一言欄には季節のイベント情報も。近隣小学校へも配布し、連携をとっています。

狭山ヶ丘分館

おはなし会や親子おはなし会の他、こわいおはなし会、クリスマス会、かるた大会と季節毎に行事を行い、おはなしの楽しさを子どもたちに伝えていきます。

富岡分館

水曜日には、3回の年代別おはなし会を毎週開いています。また、特別支援学級でのブックトークを毎月一回行い、子どもの読書推進に取り組んでいます。

吾妻分館

第2土曜日におはなし会を、第4土曜日におはなしと工作会を行っています。手遊びなども行いますので遊びにいらして

ださい。公民館や幼稚園と連携したおはなし会も行っています。

柳瀬分館

乳幼児や小学生向けなど、年齢に合わせたおはなし会や、絵本作家のおはなし会を行っています。親子昆虫観察会、科学実験工作会等、家族で楽しめます。

新所沢分館

公民館の子育てサロンへの出張親子おはなし会や児童館と共催の子ども司書体験を開催。学校図書館と連携して中高生向けブックリストを作成する等、本との出会いを後押ししています。

こんなですか？ 文化財保護強調週間

文化財保護の理解と関心を深めるために、毎年11月1日から7日までの1週間は文化財保護強調週間として、様々な行事や広報活動が行われています。

文化財の一般的なイメージとしては、日本のものでは奈良の法隆寺や東大寺の大仏など、世界のものではピラミッドや万里の長城などが、すぐに思い浮かぶと思います。

どれも大切な文化財ですが、

所沢にも郷土に根差した貴重な文化財が、たくさん存在しています。

例えば、市内、上山口にある通称山口観音・金乗院（こんじょういん）は、創建が奈良時代と伝わるお寺で、歴史を感じさせる多くの文化遺産があります。

その1つに、市指定有形文化財「石川文松筆 六歌仙図大絵馬（いしかわぶんしょうひつろつかせんずおおえま）」があります。これは高さ約182センチメートル、幅約273センチメートルの大きさで、板の画材に銀箔を押ししたうえに六歌仙が極彩色で描かれたものです。和歌の上達を祈願する人の求めによって、描かれたものと考えられます。作者の石川文松は、谷文晁（たにぶんちやう）に師事した郷の絵師で、晩年の約20年間を勝楽寺村や三ヶ島村（いずれも現在の所沢市）で過ごしています。

こういった所沢の文化財やそれにまつわる人物や出来事などについては、図書館の郷土資料を使って調べることができます。特に『ところざわ歴史物語』は、所沢市史全14巻のダイジェスト

版になっているので、まずはこの本を使って調べてみることをおすすめします。

一般に、国や自治体から指定や登録を受けたものを文化財と呼んでいます。郷土に根差し受け継がれた図書資料も、広い意味での「文化財」と呼べます。図書館で所蔵している『武蔵野話（むさしやわ）』や『狭山之葉（さやまのしおり）』などは、所沢を含んだ地域の風土や慣習について書かれ、所沢の歴史をより深く知ることができる書物です。また、山田力蔵（りきぞう）文庫や高橋玄洋氏寄贈の図書等は、郷土に深く関連した人物から直接寄贈された大変貴重な資料です。これらの郷土資料も文化財と同様に、後世に残していかなければなりません。

この機会に図書館を利用して、郷土の文化財について学んでみてはいかがでしょうか。

（所沢市教育委員会 文化財保護課）



『狭山之葉』（奥）と
『武蔵野話』（手前）
※所沢図書館所蔵

新館長あいさつ
所沢市立所沢図書館長 中村まさみ



今年度4月より、所沢図書館長に就任しました中村と申します。以前に図書館にも在籍しておりましたので、窓口でお会いしたことのある方もおいでになると思います。また戻ってまいりましたので、どうぞよろしくお願いいたします。

私が図書館に初めに配属されましたのは、元号が平成に変わりましたことでした。それから二十数年の間に、世の中は随分と変わりました。図書館に大きな影響を与えた変化としてICTの普及があります。

小さな頃からパソコンやスマホを、ネットやSNSを使っている子どもたちが増えていきます。図書館をご利用になる本好きな皆様も「取り寄せはネット」という方が多いのではないのでしょうか。

移ろいゆく時代の中、所沢図書館のこれからを考えるとき、私はある五つの法則を思い出します。

それは、ランガナータンとい

うインドの図書館学者が、一九三一年に発表した「図書館学の五法則」です。

第一法則：Books are for use. (図書は利用するためのものである。)

第二法則：Every reader his or her book. (いずれの読者にもすべて、その人の図書を。)

第三法則：Every book its reader. (いずれの図書にもすべて、その読者を。)

第四法則：Save the time of the reader. (図書館利用者の時間を節約せよ。)

第五法則：A library is a growing organism. (図書館は成長する有機体である。)

『図書館学の五法則』森耕一監訳
日本図書館協会 1981

本には読者を、読者には本を、利用する方のために、できる限り早く…。

図書館を取り巻く環境や時代が変化しても、図書館の果たすべき役割は、そう簡単には変わ

りません。発表されてから八十年以上が過ぎていますが、この法則は図書館サービスの基本といえるでしょう。

そして、第五の法則。図書館は成長する有機体なのです。今までも、これからも、利用する市民の皆様によって所沢図書館は育っていきます。おかげをもちまして所沢図書館は蔵書数が百万冊に迫る大きな図書館に成長しました。

どうぞ、皆様、今後ともお力添えくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

編集後記

一度読んだ本を久しぶりに開いた際に、その本と出会った当時の情景が思い浮かぶことがあります。あの時はあんなことがあった、というように、印象深い本ほど、より鮮明に……。図書館に勤めていると、日々、様々な本との出会いが生まれます。長い歳月を経て、再び図書館で出会った本とめぐり会い、そのページを開く時、私は図書館で過ごした日々を思い出すのだろうかと思ってしまう。(S)

編集発行：所沢市立所沢図書館

ホームページアドレス

パソコン

携帯電話

スマートフォン

電話 / FAX

〒359-0042 所沢市並木1-13

<https://lib.city.tokorozawa.saitama.jp>

<https://lib.city.tokorozawa.saitama.jp/k>

<https://lib.city.tokorozawa.saitama.jp/opw/OPS/OPSINDEX.CSP>

電話 / FAX

本館 04-2995-6311 / 04-2992-1421

所沢分館 04-2923-1243 / 04-2928-8195

椿峰分館 04-2924-8041 / 04-2928-8148

狭山ヶ丘分館 04-2949-1193 / 04-2949-8577

松井小学校図書館 04-2992-2796 / 04-2992-2797

富岡分館 04-2943-3636 / 04-2943-6680

吾妻分館 04-2924-0249 / 04-2928-8250

柳瀬分館 04-2944-4023 / 04-2945-7236

新所沢分館 04-2929-1905 / 04-2929-1906

2016年11月16日発行 復刊いずみ13号 (通巻91号)